

Significance of serum pepsinogens and their relationship to Helicobacter pylori infection and histological gastritis in dialysis patients

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15596

学位授与番号	医博乙第1519号		
学位授与年月日	平成12年5月1日		
氏名	荒木 英雄		
学位論文題目	Significance of serum pepsinogens and their relationship to <i>Helicobacter pylori</i> infection and histological gastritis in dialysis patients		
論文審査委員	主査	教授	馬 潤 宏
	副査	教授	小 林 健 一
		教授	中 村 信 一

内容の要旨及び審査の結果の要旨

近年、*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 感染と慢性胃炎や胃十二指腸潰瘍との関連が報告されてきた。腎機能正常者において *H. pylori* 感染陽性者は陰性者に比し、有意に血清 pepsinogen (PG) I, 及び PG II が高値を示すことが知られている。一方、透析患者では腎機能正常者に比し有意に血清 PG 値が高いとする成績がある。しかし、透析患者において *H. pylori* 感染が血清 PG 値に及ぼす影響についての検討は極めて少ない。本研究では、上部消化管内視鏡検査を要した維持透析患者 63 例 (透析患者群) と、性、年齢が合致する腎機能正常者 64 例 (腎機能正常群) に対して、インフォームドコンセントを得た上で *H. pylori* の培養及び同定、Sydney system に準じた組織学的評価を行い、*H. pylori* 感染や組織学的胃炎と血清 PG などとの関連を検討した。また、*H. pylori* 陽性で胃十二指腸潰瘍、胃炎を有する維持透析患者 23 例に対し、*H. pylori* 除菌療法を行い、その前後で血清 PG 値の変化を検討した。得られた結果は以下の通りである。

- 1) *H. pylori* 感染率は、透析患者群が腎機能正常群に比し有意に低値であった。
- 2) 透析患者群において、*H. pylori* 陽性者は陰性者に比し有意に血清 PG II 値が高値であるが、血清 PG I 値は *H. pylori* 陽性者、陰性者間に有意差を認めなかった。
- 3) 透析患者群の血清 PG II 値は腎機能正常群と有意差がないものの、血清 PG I 値は透析患者群が腎機能正常群に比し有意に高値であった。
- 4) 腎機能正常群では血清 PG I 値、PG II 値はいずれも前庭部の炎症及び活動性の指標とに有意な正の相関関係を認めるものの、透析患者群では、血清 PG II 値のみ有意な正の相関関係を認めた。
- 5) *H. pylori* 除菌療法にて維持透析患者 23 例中、21 例が除菌療法を終了し、18 例が除菌成功、3 例が除菌失敗と判断されたが、除菌成功例で血清 PG II 値は有意に低下したものの、血清 PG I 値は除菌前後で変化を認めなかった。

以上より、透析中の末期腎不全患者における *H. pylori* 感染の診断、胃前庭部の炎症及び活動性の評価、さらに *H. pylori* 除菌療法の成否の評価には、血清 PG I 値ではなく PG II 値が有用であることが示唆された。本研究は透析中の末期腎不全患者の胃粘膜病変と *H. pylori*、血清 PG 値との関係を明らかにし、また、今後増加すると考えられる腎不全患者の *H. pylori* 除菌療法の成否の指標を示唆しており、臨床腎臓病学の発展に寄与する研究と評価された。